

「入籍したのですが実感が湧きません。どうしたら既婚者としての自覚が確固たるものになると思われませんか？」

令和4年10月11日

●長州男児さんからの質問

こんにちは。いつも西田先生の熱心な活動に心打たれております。人生相談も可との事でしたので、以下、質問させていただきます。先週、かねてよりお付き合いしていた女性と入籍いたしました。入籍にあたって、この国で結婚することの意味を考えました。日本における結婚は、単なる制度上の契約に留まらず、戸籍という、時代を超えた大流の一部を形成すると言う意味であると思います。ですので、この国に生まれ、結婚するということは大変光栄であるとともに、気が引き締まる思いですが、結婚して1週間、あまり結婚の実感が湧いていないような気もしております。どれくらい経てば、あるいは、どんな事がきっかけで既婚者としての自覚が確固たるものになると思われませんか？西田先生のご意見をお聞きしたいです。よろしく申し上げます。

●西田昌司の答え

先ずはご結婚、おめでとうございます。

入籍のみで結婚式は挙げられていないのでしょうか。結婚式を挙げて披露宴を催せば、世間に周知することで結婚したという気構えを持てますし、一つのけじめにはなります。

結婚して一緒に生活をすると、良いところや悪いところをお互いに見せつけ合うことになりますが、お互いが自己本位に暮らしていたら結婚生活は続きませんし、相手のことを一番に想って我慢もしながらやっていかなければ

なりません。そんな生活を続けていると、次第に結婚生活の実感も湧いてくるでしょう。

結婚生活上の最大の出来事といえば、やはり子供を授かることです。子はかすがいと昔から言いますし、夫婦の絆を強固にするのが子供の存在です。夫婦の血を受け継いだ子供は、小さいうちは手も掛かりますが可愛いものです。しかし、自我が芽生えてくる中学生辺りになると親の言うことを聞かなくなると、子供のことで夫婦喧嘩になったりもします。子供を相手にいろいろとしんどいことも経験しなければなりません、そんな経験を通して人は親になるのです。

誰でも父親と母親が一人ずついますが、その親にも父親と母親が一人ずつおり、過去に遡っていくと無数の人のつながりの中で今の自分がいることに気付かされます。子供の頃はそんなことに思いを至らせることはありませんが、自分も親となってみると、自分が親に叱られたり心配をかけさせたことを今、自分の子供にやったりされているし、そうやって先祖代々つながっているのだということを親になると身に沁みて感じます。子供を授かることで、人は成長できるのです。

結婚とは、歴史の縦軸と社会の横軸の中で生きている自分の存在を思い知る過程であるとも言えますし、長州男児さんの言われる「戸籍という、時代を超えた大流の一部を形成する」とはまさにそのことです。戸籍とは、単なる文字の情報ではありますが、自分と結婚相手のそれぞれの家にご先祖様の物語と歴史があり、何かの縁で結婚相手と出会って子供を授かり、自分自身が両家の物語と歴史を紡いでいくのです。

以上のことは、何も子供を授かった人のみが引き受ける話ではありません。自分という存在は、無数の先祖があってこそその自分ですし、誰もが歴史の縦軸と社会の横軸が交差する今を生きているのです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>